

I 6・7月の連盟・日本連盟事業 ※会議等は除く

月 日	名 称	主 催	内 容
6/3(土)	野営法研究会	指導者養成委員会	カブのキャンプ編。カブスカウトにテントでカブのキャンプを体験させよう!!
6/11(日)	WB 研修所課程別研修	日本連盟	各課程別研修
6/18(日)	第76回BS講習会	日本連盟	指導者導入訓練
6/18(日)	団委員長のための講演会	総務委員会	今回は県コミッショナーに講演をお願いする予定です。
7/1(土)	全国組織拡充担当委員長会合	日連組織拡充委員会	内容は未定です。
7/1(土)	ロープ結び研究会基本「ロープ結び入門」	指導者養成委員会	生活でも役立つ「ロープの結び方」について学ぶ研究会
7/2(日)	スカウトソング研修会	指導者養成委員会	スカウトソングを楽しく歌う研修会
7/8(土)	地区委員長会合	総務委員会	地区委員長からご意見を聞きます。
7/16(日)	救急法講習	プログラム委員会	ボーイ・ベンチャー対象

II 事務局からのお知らせ

(1) スカウト用品の注文について

今年度より、スカウト用品の注文について下記のように変更になりますので、よろしくお願いたします。県連盟事務局をとおしてスカウト用品をご購入いただくと、購入金額の一部が県連盟スカウト用品特別会計の収益となり、事務局費の一部に充てることができます。その結果、登録料や負担金の値上げを抑制することができます。スカウト用品は県連事務局をとおしてご購入ください。

① 団でスカウト用品の発注担当者をお決めください

これまで、団の様々な立場の方から、それぞれ発注が届いていたため、連絡先の確認や会計処理に多大な時間がとられていました。今年度から、スカウト用品の発注は、各団1名の発注担当者を決めて、その方から発注するようお願いいたします。

② スカウト用品発注は専用窓口へ

日々の事務連絡等にまぎれないよう、また発注作業の効率化のため、発注専用メールアドレスを設定しました。スカウト用品の発注はこの専用アドレスへお願いします。

スカウト用品発注用メールアドレス order@scout-ib.net

③ スカウト用品の発注は、専用のエクセルファイルをお願いします

FAXでの注文では、すべての発注情報を事務局が発注用エクセルファイルに入力し直さなければなりません。エクセルファイルでご注文いただければ、コピー&ペーストで簡単に集計・発注ができます。今年度から、このニュースと同時に送りますエクセルファイルでの発注をお願いいたします。

④ 急な発注はご遠慮ください

「週末の隊集会で必要なので、3日で届きませんか」など、期日の短い急な発注には対応いたしかねます。事務局の営業は、火・木・土です。火曜日の朝までに発注いただいたものについては、おおむね土曜日までに事務局に荷物が届きます。

Ⅲ コミッショナーよりのお知らせ

(1) 指導者のつどい

指導者のつどい(スキルアップセミナー)

「巡礼の旅(序章)」 巡礼そこには何があるのか・・・」

指令書の指示に従いチェックポイント（CP）を廻り、ハイキングを行います。
今回はただハイキングをするのではなく、コマ地図を作りながらハイキングを楽しみ、原隊のプログラムとして活用できることをねらいとしています。

- | | |
|---------|--|
| 1. 日 時 | 2023年6月4日（日） 9:00～16:00 （受付 8:30） |
| 2. 場 所 | 関東ふれあいの道
集合 JR岩瀬駅南 仙波新聞店駐車場 |
| 3. 目 的 | スカウティングにおけるハイキングの有効性と、スカウトの成長に資する効果を理解し、隊集会におけるハイキングを実施および創作できることを目的とする。 |
| 4. 対 象 | 県連盟内指導者、保護者、支援者、ローバースカウト |
| 5. 参加形態 | 3名～6名の班での参加もしくは個人参加（個人の場合は現地で班を作ります） |
| 6. 参加費 | ¥500（コースゴールから解散地点までのバス代を含む） |

Ⅳ 各種委員会よりのお知らせ

(1) プログラム委員会

① ベンチャーラリー2022について

ベンチャーラリー2022は年度またぎとなっておりますが、8月26日～28日に「那珂川いかだ下り」を計画しております。別途案内をいたしますので奮って参加ください。

② 技能章考査員について

2023～2024年度の技能章考査員を委嘱いたしました。コロナも収束しつつありますのでスカウト諸君はどんどん技能章にチャレンジしてください。考査員につきましては隊長、地区コミッショナーに確認ください。

③ 救急法講習会について

7月16日（日）に救急法講習会を県北地区で開催予定です。
詳細が決まり次第募集を開始いたします、ボーイ・ベンチャーの皆さんの参加をお待ちしています。

(2) 指導者養成委員会

- ① 今回の野営法研究会はこれまでの「基本」「STEP1」「STEP2」のクラス別をやめて、より対象に具体的にし、指導者により沿った研修を行う事になりました。第1弾がカブのキャンプ編です。申込は終了いたしました。第2弾をお楽しみに！
- ② スカウトソング研修会では隊指導者の皆様とコミッショナー、トレーナーを交えて、楽しく歌って過ごしたいと思います。多数の参加をお待ちしております。〆切6月20日
- ③ WB研修所課程別研修の参加申込は事務局〆切5月27日になっています。厳守でお願い致します。
- ④ 第76回ボーイスカウト講習会の参加受付中です。〆切6月6日
- ⑤ ロープ研究会の参加受付中。〆切6月20日

(3) カブ・ビーバーラリー準備委員会

- ① 大会テーマ・参加章デザイン決定
3月に募集しました第15回カブラリー・第6回ビーバーラリーの大会テーマと参加章デザインに、ご応募いただきありがとうございました。4月の第1回実行委員会で厳正な審査の結果、以下のように決まりましたので、お知らせいたします。

ア 大会テーマ「さあ！ 冒険だ！」

日立第5団カブスカウト隊 佐藤 悠斗 さん

イ 参加章デザイン

日立第5団カブスカウト隊 長山 菜心 さん



② 大会概要

時間	実施形式	基本的な考え方	
午前	ラリー形式	日頃の隊活動の成果を持ち寄って発揮することにより、ボーイスカウト教育の基本であるチームシステムや競争などを体感し、日々のスカウティングを高めていく原動力とする	○各地区が準備するブース ○各団の発表を展示するスペース
午後	運動会形式	多人数での活動の楽しさを実感するため、地区を基本にして、地区対抗または紅白対抗(複数の地区を合わせて紅組と白組に)で、体育館内で競技や応援を楽しむ	○綱引き、ボールリレー、ロープ伸ばし、など、運動会・体育祭種目を競う

③ 今後の予定

5月	○地区プログラム〆切 ○大会本部プログラム骨子の作成
6月	○第2回実行委員会 ※プログラムの検討、参加の手引きの検討
7月	○第3回実行委員会 ※参加の手引き、プログラムガイドの検討 ○参加の手引き、プログラムガイドの完成と配付(下旬)

8月	○参加隊長向け説明会（上旬） ○参加申し込み受付（下旬開始）
9月	○参加者数確定（中旬） ○招待者等に通知 ○第4回実行委員会 ※確定参加者数に基づく実施計画の修正
10月	○予算補正（理事会） ○第5回実行委員会 ※最終調整会議
11月	○開催 ○第6回実行委員会（Zoom） ※事後処理

V 各団活動の紹介

(1) つくば第1団が緑の少年団活動で表彰されました

本年11月に茨城県で開催される第46回全国育樹祭を記念して、2月4日にセキショウ・ウェルビーイング福祉会館において緑の少年団活動コンクール発表大会が開催されました。つくば第1団は1985年から桜地区緑の少年団としても活動しており、団の活動状況について発表した結果、優良賞（県議会議長賞）を受賞しました。今後、令和5年春に東京で開催されるみどりの感謝祭式典に代表スカウトが参加する予定です。



※早くに原稿をいただいたのに、前号は記事が多く掲載が遅くなりました。すみませんでした。
※各団の活動紹介を募集します。よろしくお願いたします。

中期計画 2023-2027

創立 70 周年において記念事業実行委員会は、この県連盟 70 周年のテーマを「Catch The Scouting Spirit 三指がつなぐ、ひとつの想い ～過去、今、そして未来へ～」としました。そして 10 年後も茨城県連盟が存続し、ボーイスカウト運動が継続していくために、「茨城県連盟の未来のための取り組み（提言そして提案）」をまとめました。しかしながら、その提言には今やるべきこと、方向性は示されていても、10 年後には「こうなっている」という具体的な姿は示されませんでした。そこで、本県連盟は中期計画 2023-2027 を策定し、ボーイスカウトの本来あるべき姿を確認し共有することにより、茨城におけるこの運動が、青少年たちのより幸福な人生の「基盤」づくりとなるよう、またスカウトのより良いキャリア(生き方)に繋がるよう、最初の 5 年間における取り組みをまとめました。

○ボーイスカウトのあるべき姿とは

※B-P が考えたスカウティングへの回帰

まず B-P の言葉の中から 3 つを紹介しよう。そこには我々が行っていくスカウティングがどんなものなのかが、明確に述べられている

- ◆ スカウティングは真面目に勉強しなければならないような学問でもなければ、学説や出典を集めたものでもない。さらに、少年たちに規律を繰り返し教え込んだり、その個性や、やる気を抑圧するような軍队的な規律でもない。そう、それは野外での楽しいゲームである。そこでは、少年の心を持った大人たちと少年たちが兄弟として一緒に冒険に出かけ、健康と幸福、手技と役に立つことを身につけることができる場なのです。
- ◆ そう、スカウティングはゲームである。しかし、我々のパンフレット、規約、スカウター誌の論文、コミッショナーやその他の指導者の訓練など、あらゆるものを見て見ると、時として我々はゲームにしては、あまりに深刻なものにしようとしているのではないかといぶかしむことがある。
- ◆ 私達の訓練の方法は、外側から教え込むよりも、内側から引き出すモノである。ゲームや活動を提供すること、それらが少年たちにとって魅力的なものであるなら、正に少年を道徳的、精神的、肉体的に訓育することになるだろう。

そう「愉快でなければスカウティングではない!!」です。そして「スカウティングは子ども達が始めたもの(B-P は提唱者)」であり、こどもたちのもので有ることを忘れてはなりません。さらにスカウティングは「スカウトがスカウトを教える」(→大人がスカウトを教えるのではない)ことを理解していなければなりません。私たち成人指導者の役割は、スカウトたちが本当のスカウティングを享受できるよう環境を整え、その道を歩めるよう導くことなのです。

1. スカウト運動の使命声明

「スカウト運動の使命吉明」は、第 35 回世界スカウト会議において採択されました。これは、世界のスカウト運動の基本原則である「目的・原理・方法」をより具体的に推進することと、スカウト運動が社会で果たすべき任務を確認するものです。私達「成人」の位置づけを明確に示したものですので、再確認&再認識をしましょう。

2. 組織・指導者・プログラム活動のクオリティの高い人を育てる

「スカウト数が減少しているの、加盟員を増やそう。」・・・これはこの運動に係わり運営している者であれば、誰しもが思っていることでしょう。その原因は 10 年前に提示された「スカウト活動をやめた本当の訳とは」に明確に書かれています。この組織のあるべき姿、指導者の持つべき意識、プログラムのより良い展開などの運動の基盤となる部分を整備し、共通な理解をしていかなければ

ればなりません。

茨城県連盟においてもA I Sポリシーを研究・理解し、その「成人のライフサイクル」に考慮した組織運用を行うことによって、これまでの組織運営の良さも考慮しつつ、より明確で透明な「制度」に準拠した運営体制を整備することで、指導者を育成し、スカウト精神とプログラムを充実させ、ボーイスカウト運動を推進に繋げていきます。

3. スカウト教育法の「社会との共同」

2017年の第41回世界スカウト会議で、「スカウト教育法」に、3つ目の要素「社会との協同」が追加されました。これは現代の社会を取り巻く急激な変化に対応するために、「社会との関わり」をとおして、多種多様な人が互いの考え方の違いや個性を受け入れながら、ともに成長し共存共栄するということ(ダイバーシティ&インクルージョン)が大切だと気づいたからです。

今後は、「Creating a Better World」という共通の目標を掲げて、これまで以上に同様の趣旨を謳う様々な団体や地域と協働していくことが必要になります。また、そのことによって、スカウティングの認知度を高め、地域から必要されることで、更に多くの青少年がこの運動に関われるよう、よいスパイラルを作っていきます。

4. これまでのスカウティングの確認と新たな認識

キャンプはボーイスカウトにとって、実に理に適った活動でした。ボーイスカウトのキャンプでは、多種多様なプログラムやキャンプ生活があり、その時々状況に合わせて様々な運動器官を複合的に使うので、バランスよく身体を鍛えることができます。また、キャンプ生活の中では、想定外のことがいろいろと起こるものですが、予測不能な災害や、事故などに遭ったとき、どうすればいいのかを思い巡らせ、どんな行動を取るべきかを考え、冷静に自ら判断し、色々な人と協働してその状況に対処できる、このような「生きる力=HQ(Humanity Quotient)」を身に付けられるのです。ボーイスカウトの活動は「良き社会人をつくる」と言われていますが、自然に触れる活動をすることで高まる「人間力」を脳科学的に提え、豊かな人間力を携えたスカウトを育むスカウティング・プログラムを開発していきます。

5. ボーイスカウトであれば、誰でも「救急法」ができるから安心!!

ボーイスカウトで培えるスキルで普段の生活でここ一番に役立つスキルと言えましょうか? そう「救急法」です。救急法を身に付けていると、万一の災害の時でも大いに役立ちます。「スカウトならば誰でも救急法ができ、地域や日常生活で役立てることができる」という意識とスキル(それぞれねの年代に合わせた)を身に付けていることは、安心な活動の展開だけでなく、社会に対しても大いにアピールできることです。S f Hやこのような小さな取り組みの積み重ねが、ボーイスカウトというブランドの正しい認知に繋がっていきます_その実現に向けて取り組みます。

この1～5のような、取り組みは、「僕は(私は)、スカウトなんだ!!」という気概をスカウト達に持ってもらうなくては、十分な効果は得られません。スカウトたちが幾多の困難(チャレンジ)を伴う活動を、班の仲間たちと楽しみながら取り組み、失敗しても何度もチャレンジし克服して、最後までやり遂げることで、自信をつけていく・・・そんな楽しく愉快的活動が毎月のようにあることで、スカウトたちは自らすすんで隊活動に参加し、更に大きく成長していく。そんな活動が引き続いてできるように、団が指導者に対して研修への参加を促進し、隊活動にも十分な支援をしていく。そして、団と隊の絆が深まり、それがいい形でスカウトや保護者に伝播していく・・・。こんなスカウティングだと、スカウトも指導者も保護者もスカウティングに関わることが嬉しくなります。このような団隊になるよう、スカウティングの原理、目的、方法を正しく理解し、適切な支援を受けて成長できる指導者を県連盟そして地区として育てていきましょう。

「中期計画 2023-2027」は5月21日(日)の県連盟年次総会議案書と一緒に、各団に配付いたしましたので団委員会・団会議で共有してください。中期計画では、県連盟だけでなく、地区や団・隊も県連盟と歩調を合わせて取り組む内容が書かれています。10年後も茨城にスカウト運動が存続していくために、必ず一読してください。